

## 倫理，政治・経済

### 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

#### 1 前 文

令和5年度（第3回）共通テストの「倫理，政治・経済」の問題は，大問7問で構成され，「倫理」分野から4問，「政治・経済」分野から3問が出題された。設問は，「倫理」分野から16問，「政治・経済」分野から16問であり，設問は全て単独科目からの引用で，配点は50点ずつであった。

ここでは，本年度の問題に対して，「倫理」と「政治・経済」それぞれの科目の問題作成方針に基づいたものになっているかどうかについて評価を実施した。

なお，評価に当たっては，報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により，総合的に検討を行った。

#### 2 内容・範囲

##### 第1問 「心と行為」について（源流思想）

高校生の会話という場面から，人助けの実践ができなかった悩みに関連して，先哲の様々な思想を問う問題設定である。宗教的な実践や心の在り方について，先哲の原典資料の読み取り，日常生活につなげて考察する学習過程が重視されている。

問1 宗教的实践について問われている。正確な知識を基に考えれば解答できるが，朱子学の性即理に関するやや細かな判別が求められたため難問であった。

問2 行為と結果について，パウロ，ウパニシャッド哲学，イスラーム，ソクラテスが幅広く問われている。それぞれについての正確な理解が求められた設問である。

問3 先哲の文章（原典の一部）から読み取れる内容と知識を組み合わせる設問である。ソクラテスの思想を前提として文章全体からその主張を理解する必要がある。選択肢にはやや曖昧な表現も含まれるため判別が難しい。

問4 先哲の文章（原典の一部）を資料として読み取り，先哲の思想を踏まえて自らの判断を振り返っている。日常生活と先哲の「心」の理解を結びつけて理解を深める工夫がされた良問である。

##### 第2問 「縁」について（日本思想）

生徒が会話や資料を通じて，「縁」について考えを深めていく大問である。出題範囲もバランスがよく，標準的な難易度の設問である。会話文の文脈や絵画資料を十分に踏まえなくても解ける問題が多かった点については，工夫を期待したい。

問1 無常を見つめた中世の人物についての知識を問う，標準的な難易度の設問である。西行や兼好（吉田兼好）の和歌や随筆の文章が具体的に示されていなかったため，判断に迷う受験者がいたかもしれない。

問2 中江藤樹の朱子学批判や，時・処・位に応じた道徳の実践という知識を問う，平易な設問である。

問3 社会の問題を考えた四人の人物の事績の正誤を判断する設問である。西光万吉や石川啄木，そして自然主義については掲載していない教科書もあり，判断に迷う受験者が多かっただろう。

問4 学習のまとめとして書いたレポートの内容に合致する選択肢を選ばせる，平易な設問で

ある。文章量が多いため、正確に内容を読み取る力が求められた。

### 第3問 社会の在り方について（西洋近現代思想）

人々が共存するために社会が必要だが、それを多様な人々に開かれた公共的な場として構築していくためにはどうすればよいかについて西洋近現代思想を参照しながら考える大問となっている。冒頭のリード文を高校生と先生の会話文を踏まえて読み解くという形の設定を最後に置き、大問の趣旨が受験者に伝わりやすくなる工夫をしている。

問1 ヒュームについての基本的知識が問われている。空欄補充形式にすることで正答のヒントが得られるようになっているが、経験論と合理論の概念の理解が求められるため、難易度が高い。

問2 社会を対象にした思想や学問である社会主義や社会学の草創期を取り上げた設問である。ただし、サン＝シモンもコントも高等学校の授業で十分に取り上げるのは難しいので、難易度が高い。

問3 ハーバーマスの思想のキーワードが分かれば選択肢が絞られ、資料の読解によって正答できる。かつては有閑階級が公共性の担い手になっていたことを受験者に教えている。

問4 第3問冒頭の文章の趣旨を問う設問であるが、高校生と先生の会話文を入れる工夫が施されている。多様な他者と共生することを説く会話文の内容を理解することで正答が導き出せる。

### 第4問 高齢者の孤独と孤立（青年期・現代の諸課題）

「高齢者の孤立」や現代の倫理的諸課題について、高校生の発表や資料を基に知識や読解力を問う大問である。

問1 個人と社会の関係を論じた思想家の名称を選択する設問である。教科書に記載のない思想家については、資料等を用いた読解問題であるとよい。

問2 モラトリアムについての設問である。正答以外の選択肢も基本的用語の説明であるため、難易度としては易しい設問である。

問3 ハンナ・アーレントの標準的な難易度の資料問題である。倫理的な見方・考え方を踏まえた論理的思考力と読解力が求められる設問となっている。

問4 冒頭の発表を前提に、会話文に高校生の考察を当てはめる設問である。大問全体の趣旨を踏まえた上で、より一層、原典資料の読み取りと関連させた出題を期待したい。

### 第5問 現代の法をめぐる課題

「現代の法をめぐる課題」をテーマにした政治分野の問題であり、場面設定としては、「政治・経済」の授業において、人権保障の課題、司法制度の課題、議会制度の課題の三つのパートに分かれて発表する内容の概要をまとめたノートを題材としている。全体としての難易度はやや平易である。

問1 「社会秩序を維持するために国家が設定した社会規範」としての法の機能について、具体的事例として最も適当なものはどれかを考察させる設問である。思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる、平易な設問である。

問2 基本的人権の保障に関する歴史的な文書についての基本的な知識・理解を問う、標準的な設問である。

問3 日本における障害者の権利について、その知識・理解を問うとともに、「合理的配慮」の具体的事例について考察させる、標準的な設問である。

問4 日本に在住する外国人参政権についての最高裁判所判決の内容を読み取る力を問う、平易な設問である。

問5 日本における司法制度改革についての基本的な知識・理解を問う，やや平易な設問である。

問6 日本の労働に関する法改正とその背景についての基本的な知識・理解を問う，平易な設問である。

#### 第6問 経済活動における政府の役割

「経済活動における政府の役割」をテーマにした経済分野の問題であり，場面設定としては，二人の生徒が一緒に「政治・経済」の授業を振り返りながら，学習したことをノートにまとめるといふものである。資料を読み取らせながら問う形式と授業で学習した知識・理解を問う形式のバランスも良く，全体としての難易度は標準である。

問1 経済学者とその学説について，発展途上国が経済成長するために必要な政策の知識・理解を問う，やや難しい設問である。

問2 日本の農業や農業政策の現状に関する基本的な知識・理解を問う，標準的な設問である。

問3 世界貿易の拡大について，これまでの多国間交渉の流れに関連した設問であり，特にウルグアイ・ラウンドでの交渉内容に関する知識・理解を問う，標準的な設問である。

問4 国の一般会計予算における社会保障費用の増加についての資料を読み取らせた上で，基礎的財政収支の黒字の状態を示した図を選ばせる，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる，平易な設問である。

問5 公園の近くにテーマパークができたため公園は誰も利用しなくなった場合などの三つの事例について，公共財の非排除性と非競合性についての知識・理解を基に思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問であり，やや難易度の高い良問である。

問6 地方自治体が新たにアウトソーシングをしたと考えられる例を選択させる，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる，平易な設問である。

#### 第7問 ディーセント・ワークの日本での実現について

「ディーセント・ワークの日本での実現」をテーマにした政治分野と経済分野の融合問題であるが，やや経済分野に偏っている。場面設定としては，生徒が，このテーマについて探究を行い，クラスで発表することとなったといふものである。雇用と労働をめぐる現代社会の諸課題について，多面的・多角的に考察させる問題であり，時事的な要素を含む事例についての知識・理解を問う設問や資料を読み取らせながら問う設問があり，全体としての難易度はやや難である。

問1 映画館で学生割引がある場合の入館者数について，需要の価格弾力性についての知識・理解を基に，サービスに対する需要を高校生と社会人とを比較して考察させる設問である。思考力・判断力・表現力等を発揮することが求められる，やや難易度の高い良問である。

問2 所得格差が消費に与える影響について，可処分所得と平均消費性向のモデルケースを示した表を読み取った上で，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる，標準的な設問である。

問3 日本における働き方に関する時事的要素を含めた設問である。フレックスタイム制，テレワーク，高度プロフェッショナル制度に関する知識・理解を問う，やや平易な設問である。

問4 日本における労働者の現状について，労働組合の組織率，労働関係の民事訴訟件数，労働審判件数の推移に関する資料を知識・理解を用いて読み取る力を問う問題であり，やや難易度の高い設問である。

以上の内容から，設問の内容は適切で，学習指導要領の定める範囲で出題されており，出題内容に大きな偏りはなかったと考える。

### 3 分量・程度

全体の設問数は、大問数7、総設問数32で、本試験の設問数と同じ適切な設問数であった。試験全体の分量や文字数についても、「倫理」と「政治・経済」それぞれの問題作成方針を考慮すると適切なものであったと考える。

「倫理」の問題においては、全体を通して、有名な思想家の概念や用語については資料を用いて知識を前提とした思考力・判断力・表現力等をはかろうとする等の工夫がみられた。単に教科書で知識を暗記するのではなく、知識を活用して正答を導くことができるようになることが重要である。また、抽象的な概念の用語を具体的事象にあてはめて出題することで、受験者の知識の定着や活用をはかる問題となっていた。

「政治・経済」の問題の難易度については、標準的な問題が多いといえ、知識・理解を基に思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題（第6問の間5、第7問の間1）など、良問もあり適正であるといえる。

### 4 表現・形式

各設問の文章表現・用語については、受験者にとって適切であった。

「倫理」の問題においては、原典資料も豊富で、芸術鑑賞時や授業時の場面を活かすなど、資料の提示の仕方にも工夫が見られた。知識を基に資料を読み解き、得られた知見を自らの生活に応用するとどういふことができるかを問う設問もあり、本来の資料活用の在り方が示されていた。全体を通して、「倫理」における探究学習の進め方や、その生活への応用可能性が示されていた。

「政治・経済」の問題においては、第7問の場面設定が、探究する学習の手順をまとめた調査発表計画を題材としており、主体的・対話的で深い学びを志向する授業改善へのメッセージ性があり、現代社会の諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な資質・能力と態度を育てるといふ「政治・経済」の科目の目標に照らして適切であったと考えられる。

### 5 ま と め（総括的な評価）

共通テストの3回目となった本年度の追・再試験の問題は、全体として、テーマの設定がよく工夫されており、探究的な学びの在り方としても参考となる大問が多い。

今後も学習指導要領で求められる知識・技能を基に、それらを活用して資料等から課題を捉える設問や、現代社会の諸課題や時事的な諸課題など生徒にとって切実な事象を多面的・多角的に考察させる、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問を期待したい。